

HOKUSEI@COM

2007・JULY

vol.4

HOKUSEI GAKUEN UNIVERSITY
COMMUNICATION MAGAZINE SUMMER EDITION

北星学園大学
北星学園大学短期大学部

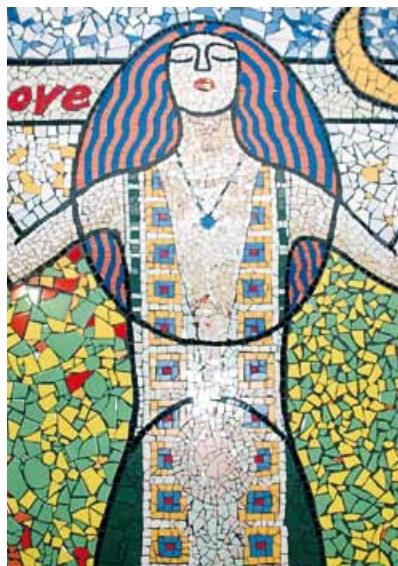


北星学園創立120周年記念
Shine Like Stars
—世にあって星のように輝き—



02

特集
NPO法人 C·C·C 富良野自然塾
塾長 倉本 聰さんインタビュー
**森を育てよう。
未来の
家族のために。**



04

大谷地交流録
**トンネルに夢の街を
描いた、一人ひとりの
心のかヶ原。**



05

OB&OG インタビュー
卒業生は、いま。

**人間の弱さ、
人間の絆のすばらしさ。
みんな自然が
教えてくれた。**



06

十人十色の北星ライフ
**世代も
国籍も超える、
ともに学ぶ喜び。**



07

先生たちのその素顔
短期大学部 エドガー・W・ポープ先生
**音楽、
それは異文化を
理解する出発点。**



08

HOKUSEI INFORMATION
北星学園大学からのお知らせ
●第40回 北星学園大学
社会福祉夏季セミナー
●第33回 北星学園大学公開講座
●北星オープンユニバーシティ
●北星オープンユニバーシティ
シニア対象講座



特集 INTERVIEW

NPO法人 C-C-C富良野自然塾 塾長
倉本 聰さんインタビュー

森を育てよう。 未来の 家族のために。

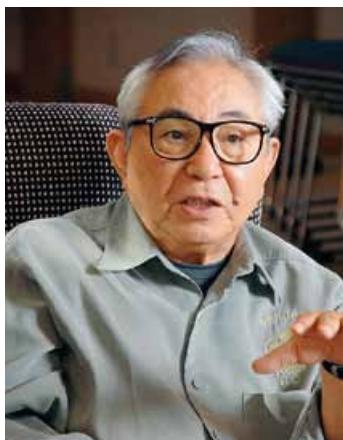
『北の国から』『優しい時間』など数々の名作を生み出した作家・倉本聰氏。自然豊かな富良野を生きて、愛して、書き続ける倉本氏の新たな挑戦が始まっています。閉鎖されたゴルフ場を元の森に還し、環境教育の場として活用する「富良野自然塾」。塾長として、地域住民として、そして地球市民として、富良野の自然を見つめる倉本氏のアトリエを自然塾のプログラム体験後に訪ねました。

文明は人間のサボリ欲求の産物。

及川：先ほど「富良野自然塾」のプログラムを体験させていただきました。中でも地球の歴史をたどる「地球の道」は衝撃的でした。46億年を460mに置き換えると1歩が1,000万年に匹敵するのに対して、現代は1mmにも及ばない。そんな現代の文明が地球環境を危機にさらしている現実を、改めて考えさせられました。

倉本：みなさんはパソコンや携帯電話などの文明の利器を最も活用している世代でしょうね。必要最小限の文明はとてもありがたいものです。ぼくも携帯電話は使いますが応答がせいいっぱい(笑)。メールもパソコンも使えませんから、原稿は今でも手書きです。そもそも文明というのは人間のサボリ欲求から生まれてきたもの。食器を洗わなくて済むファストフードも、電化製品をすぐに使うための待機電力もそうですね。でも、人間のサボリのひずみは確実に現れてきています。いま世界のIT機器によるCO₂排出量は、航空機のそれに匹敵するほど増加しているのが現実なのです。いま自粛しないどんどん悪化してしまいます。

上野：確かに私たちは夜になれば電灯をつけるし、大学のレポートはパソコンで作成するし、エネルギーを当たり前のように使っています。



PROFILE

倉本 聰

1935年東京生まれ。東京大学文学部卒業。ニッポン放送を経て脚本家として独立。1977年富良野市に移住し、執筆活動の傍ら「富良野塾」を主宰して後進の育成にも力を注ぐ。主なテレビ作品に『前略おふくろ様』『北の国から』『優しい時間』など、主な映画作品に『冬の華』『駅』など、主な著書に『北の人名録』『谷は眠っている』など多数。



文学部
心理・応用コミュニケーション学科
3年 及川 瑞穂

中学の授業で「北の国から」を観たり、著書もいろいろ読んで倉本先生の考え方と共に感心していたので、直接お話を伺えて感激しました。



文学部
心理・応用コミュニケーション学科
3年 上野 舞子

「富良野自然塾」では実体験の大切さを実感。倉本先生のお話を伺って、小さなことでもできることがある、と前向きな気持ちになりました。

倉本:たとえば昨日の夕食を思い出してごらんなさい。大地でとれた野菜、穀物から作られた調味料…ほとんどが自然から作られています。着ているものもそうです。綿はもちろん、ナイロンなどの化学繊維も、原料の石油は動植物の死骸が変成したものです。つまり私たちの衣食住はすべて自然からいただいたものなのです。アイヌ文化研究者だった故・萱野茂さんが「アイヌ民族は土地の自然から作られる利子の一部で暮らしていた」とおっしゃっていましたが、現代人は自然の利子はおろか、すでに元金まで切り崩しつつあるのかもしれませんね。

及川:世界の石油はあと40年ほどでなくなると言われていますね。実感がないのですが…。

倉本:そのころぼくはもういないけれど、君たちは生きている間に文明社会の崩壊を体験できるわけだ(笑)。危機意識を実感するためには、たとえば来年の洞爺湖サミットは電気を使わずそくの灯りで会議を行う、というくらいの環境哲学を一人ひとりが持つべきだと思いますね。



森と水と人間と。作家として伝えたいこと。

上野:倉本先生が環境問題に真剣に取り組みはじめたきっかけは何だったのですか?

倉本:23年前に「富良野塾」で使っていた湧水が水枯れしたことですね。人が生きるために必要な空気と水、その半分を失う恐ろしさを身をもって実感したんです。そして水枯れの原因を探っていくうちに、上流の森が伐採されたことで水源が断たれたのではないかと思い当たり、森と水の関係を考えるようになったわけです。その後C.W.ニコル氏や椎名誠氏などとともに「自然・文化創造会議(C・C・C)」を発足し、具体的なアクションを起こしました。そのころから社会も環境問題に注目するようになってきたのだけど、マスメディアでの取り上げ方には首をかしげることも少なくなかったですね。環境問題への取り組みは恒常に継続していくもの。一過性のブームのようにあおるだけではダメなんです。「地球温暖化」という表現にしても、ぼくは「地球高温化」と言うべきではないかと思っています。ブナの木が枯れるとき、葉っぱは40~50°Cの熱を持つんですよ。そうやって自らの死期を知らせているわけです。地球高温化も同じこと。これほどの地球の切実な訴えを前にして、のんびり構えている時間はありません。

及川:私たちはマスコミ志望なので肝に命じておきたいと思います。倉本先生はドラマや舞台の中でも環境問題を盛り込んでいらっしゃいますね。

倉本:そう、ぼくが『北の国から』の核としたのは、単なる富良野の景色の美しさではない。ドラマを観た方にはおわかりいただけると思いますが、黒板五郎の生活は1960年代のままなんです。携帯電話もパソコンもペットボトルもない生活を、人は当たり前に受け入れて生きていた。それを見せたかったんです。

上野:私は昨年農業実習で2週間のファームステイを体験したのですが、まさにそんな生活でした。朝5時に起きて農作業をして食べて寝るだけ。携帯電話をいじる暇もない暮らしに慣れたころに札幌に帰ってくると、都会の人工的な風景が異様に感じられました。

倉本:みんながひっきりなしに携帯電話をいじっている姿は滑稽だよね(笑)。これからの環境問題は、きみたちのような若い世代が文明の利器を捨てる覚悟ができるかどうかがカギになると思う。ぼくが主宰している「富良野塾」でも入塾式を「原始の日」と呼び、電気もガスも水道もない中で一昼夜を過ごしてもらっています。都会ではありえない闇の中で朝を待ち、太陽が出てきたときの安堵を実感してこそ、自然のありがたみがわかるわけですね。



未来の家族のためにできることを、今やろう。

上野:倉本先生は私たち若い世代にどんな印象をお持ちですか?

倉本:ひとことで言うと「鈍い」と思いますね。これだけ切実な環境問題に対して、実感として危機意識を持てない人が多い。

及川:環境問題を頭では理解しているのですが、成果が目に見えにくいためか、正直なところ、何をしていいのかわからないという戸惑いもあります。

倉本:ちょっと考えてみてほしい。やがてきみたちはどこかの会社に就職し、結婚して家族を持つだろう。でもどんな大企業でも絶対の安定保障などないし、いつかは必ず退職する。でも、家族はどんなときもそばにいて、いっしょに生きている。そう考えると、今日の会社と未来の家族、どっちが大切だろうか。未来の家族のために、いま自分は何をすべきだろうか—たとえ成果は見えなくても、今すぐにできることがあると気づけるのではないかかな。『ハチドリのひとしづく』というエクアドルの民話があります。山火事で動物たちが逃げる中、「私は私にできることをしているのです」と言って1滴ずつ水を運ぶ鳥の話です。きみたちを含めてすべての人がハチドリのひとしづくを運べば、きっと地球は変われるはずです。

上野:社会人ではない私たちにもできることがあるのでしょうか。

倉本:ぼくはむしろ学生のパワーにこそ期待しているんですよ。「よさこいソーラン祭り」など、学生のパワーと組織力なしには語れない。かつて学生の力が政治活動に向けられていた時代もあったけれど、今その力を環境問題に集中させれば、とてつもないムーブメントになると思います。今日「富良野自然塾」で、木の苗を山採りして植樹するプログラムを体験したでしょう。あの小さな苗が大木に成長するのをぼくたちは見て見ることはできないけれど、ぼくたちの未来の家族がそれを見る日がきっと来る。この森を育てる喜びを、札幌に帰ったら友だちにもどんどん伝え、輪を広げてほしい。“学生による環境維新”を、ぼくは信じています。



【富良野自然塾】

2005年にスタートしたNPO法人による環境プログラム。閉鎖された富良野プリンスホテル内のゴルフコースを利用して、自然返還事業と環境教育事業を展開しています。富良野の大木を五感で感じながら環境を考え、育苗と植樹を通じて森の再生に向けた具体的なアクションを実践するプログラムが用意されています。

- 期 間／6月～10月
- 定 員／1名～30名(修学旅行など多数での参加は応相談)
- 料 金／高校生以上3,000円、小・中学生1,500円(税込)
- 所要時間／3時間程度



大谷地交流録 | Local Exchanges

トンネルに夢の街を描いた、一人ひとりの心のかヶラ。

すでにお気づきの方も多いことでしょう。

地下鉄東西線・大谷地駅から北星学園大学へ向かう

途中にある「白石サイクリングロード・しらかばトンネル」の中に出現したカラフルな壁画。

これは「大谷地サイクリングロードアート事業」の一環として制作されたもので、

2005年の旭町トンネルに続く第2弾となります。

地域と北星学園大学が色鮮やかに描きだす

“まちづくりの夢”をご紹介します。

暗い、汚い、怖い…トンネルを変えよう!

地域住民はもちろん、本学の学生も通学路として毎日利用しているサイクリングロードは、地域の大切な財産。しかしトンネル部分は昼間でも薄暗く、壁面の落書きも多いため「ひとりで歩くのが怖い」「景観がよくない」などの声が上がっていました。そこで、一昨年に「厚別まちづくり研究会（代表：本学経済学部・鈴木克典教授）」が実施した厚別区委託事業を参考にして、今回は本学の「地域協働（地域貢献）プロジェクト」の一環で、厚別南まちづくり会議、大谷地東小学校、地域の方々との協働プロジェクトが実現しました。厚別区在住の芸術家・原田ミドーさんをアートディレクターに迎え、4月21日にウォーキング＆ワークショップを開催。参加者から寄せられたデザインイメージをもとに原田さんが全体のデザインを起こし、5月21日から作業が始まりました。



制作に先立ち旭町トンネルを視察。イメージがふくらみます。



しらかばトンネルまでのルートをみんなでウォーキング。



落書きだらけのトンネルがどう変わるのか、乞うご期待!



全員が意見を出し合って絵のイメージを具体化していきます。

魂をこめたアートの力で、心がひとつになる。

モザイクタイルアートとは、イタリアから輸入したカラフルなタイルを割り、偶然できた形をパズルのように組み合わせて作るアート。

原田さんはスペインでその魅力を知ったそうです。「タイルを1枚ずつ割るところから作り手の魂が入るんです。そんなカケラの一つひとつが集まり、地域の人々の心がひとつになり、ひとつの絵になっていく—魂が入った壁画には落書きなんてできませんよ」と原田さん。本学学生の高橋司さん（経済学科3年）と南谷智子さん（経済法学科3年）も「初めて参加しましたが、想像以上に面白いですね」と、楽しそうにタイル割りに励んでいました。4月に中国から着任した本学経済学部の肖爽准教授も大谷地東小学校6年のお嬢さんと一緒に参加。「中国ではこのようなイベントに参加するチャンスが少ないので貴重な体験です。いつか中国でもこんなアートを作れたらいいですね」と語ってくださいました。



タイルを割る作業に没頭するうちに、魂がこもっていく。



原田さんが下絵をドローイング。プロの筆使いはさすがです。

この街で生きる喜びを見守る女神とは……。

児童から学生、地域の有志、通りがかりの人まで、たくさんの手でタイルのカケラを貼り続けること約1ヵ月。6月24日、ついに作品が完成しました。タイトルは「風街の季(とき)」。高さ2m、長さ58mのトンネル片側の壁面に色とりどりに描かれた四季の情景、躍動する生命の営み。それらの中心にやさしく佇むひとりの女神。原田さんによると、じつは北星学園の創立者であるサラ・C・スミスをイメージしたものだそうです。誰もが安心して通れるしらかばトンネルを一本学と地域住民の願いは、すばらしいアートとなってここに結実しました。



ついに完成! 女神に見守られて、トンネルが生まれ変わりました。

OB & OG Interview

卒業生は、いま。



子どもたちの冒險を支える、頼れる兄貴“ゴリさん”。

人間の弱さ、人間の絆のすばらしさ。
みんな自然が教えてくれた。



財団法人 青少年野外教育財団

千葉 栄治さん

2000年3月 北星学園大学文学部社会福祉学科卒業

自然への敬意と心身の強さ、人間関係を育む。

青少年野外教育財団では、1年間の野外活動プログラムを通して子どもたちの心身の育成をはかる自然体験学校「ネイチャーキッズスクール」を主催しています。その中でもリピーターを対象とした最上級コース「チャレンジ隊」の隊長を務めるのが“ゴリさん”こと千葉栄治さん。自身も幼いころから林間学校に参加し、学生時代からスクールスタッフを務めていたという、筋金入りのアウトドアマンです。

—「自然は脅威そのものです。ときに死を感じるほど苛酷な体験をして、人間はどう頑張っても自然にはかなわない、ちっぽけな存在なのだと実感しました。北海道は自然豊かだと言われるけれど、こうして都会で暮らしていると、人知を超えた自然の脅威を実感することはなかなかできません。スクールの子どもたちには、その怖さを体で知ってもらい、自然への敬意と心身の強さを養ってもらいたいですね」。

野外活動において千葉さんが大切にしているのが、人間関係づくり。

—「何が起こるかわからない自然の中では、一人ひとりが知恵と技術を身につけると同時に、それらを結集する団結力が不可欠です。年長になり自分でひととおりこなせるようになった子どもが、年下の子どもたちを気遣いリーダーへと成長していく姿を見るのはうれしいものです」。

次世代へ受け継がれていく、学びの連鎖。

隊長として子どもたちの安全な活動を支えつつ、若いスタッフの育成にも尽力する千葉さん。その礎は、大学時代の学びにあるといいます。

—「ラグビー部のキャプテンとして部員同士の人間関係に気を配ったり、自分が周囲に与える影響を考えたりするうちに、教育を通じて人を育て、人と人の絆を結んでいきたいと思うようになりました。それで教員をめざして勉強を始めたのですが、目標ができると勉強が面白くなってきて…心理学や福祉などの専門分野でも学びたいことがどんどん増えていき、結局8年間在籍してじっくり勉強させてもらいました(笑)」。

こうして自分のペースで勉強する傍ら、青少年野外教育財団の活動も続ける中で「学校の枠を超えた学びを子どもたちに伝えたい」という思いが芽生えはじめたのだそうです。

—「大学時代に学んだことや経験したこと、どれか一つでも欠けていれば今の自分はありません。信頼できる先生方との出会いも大切な財産です。厳しく指導していただいたことも、自分が指導者となった今ではその意味がよくわかります」。

現在、北星学園大学臨時講師として母校の教壇に立つ千葉さん。大学で学んだこと、自然や子どもたちとの付き合いの中で学んだことを、今度は千葉さんが学生たちに還元し、やがて千葉さんの後に続く次世代が育っていく—自然の連鎖にも似た学びの絆は、これからも脈々と受け継がれていくに違いありません。



ラグビーに熱中した学生時代。

親子キャンプでのカヌー指導の一コマ。



Current Student

十人十色の 北星ライフ

世代も国籍も超える、ともに学ぶ喜び。

生涯学習への注目がますます高まるなか、北星学園大学にも社会生活と勉強を両立させて頑張っている社会人学生がいます。4人の子どもを育てあげた主婦・篠島富美子さんもそのひとり。北星での学生生活を謳歌していた娘さんに触発されて社会人入学を果たしました。「子どもたちから母の日に贈られたの」という通学バッグに教科書をいっぱい詰め込み、年下の同級生たちとのおしゃべりを楽しむ姿はまさに“青春プレイバック”!



経済学部
経済法学科1年 篠島 富美子さん



経済学部経済法学科1年
鍛治 里美さん



交換留学生
(アメリカ・ルイス&クラーク大学)
デニス・ゴズネルさん

友達に年齢も国籍も関係なし!

—3人が出会ったきっかけは?

篠島:私にとって大学初の友達、サトちゃん(鍛治さん)との出会いは入学後のオリエンテーション。その後サトちゃんが友達を紹介してくれて、交友関係がどんどん広がっていきました。デニスくんは、韓国語の授業で初めて見たとき「お友達になりたい!」って思ったのがきっかけ(笑)。

デニス:先に挨拶してくれて「シノちゃんって呼んで」って言ったね。外国人に気軽に話しかけてくれる日本人は少ないからうれしかったな。サトちゃんを紹介してくれたのもシノちゃんだったね。

篠島:そうそう。みんなで我が家に遊びに来てくれたこともあったね。

鍛治:シノちゃんとご主人はなんだか雰囲気が似ているよね。シノちゃんが大学に入るとき、ご主人は何て言っていたの?

篠島:「20代の若者と一緒に勉強するなんて、オレにはできない」と(笑)。でも、わが家の子どもたちは全員家を出でていて、夫婦それぞれ好きなことをできる環境なので助かっています。応援してくれる夫には「感謝」の一語につきますね。



主婦の経験を学びに活かして。

デニス:シノちゃんはどうして経済法学科を選んだの?

篠島:学科というより北星に行きたかったというのが本音かな。娘が北星出身で、その学生時代があまりにも楽しそうだったから、うらやましくてね(笑)。私は今まで主婦として政治や経済、法律などを台所から見てきたから、経済法学科なら卒業まで続くかなーと思って。

鍛治:たしかにシノちゃんの知識はスゴイ! 経済をわかっているな、と感心させられちゃう。ふだんはなんでも話せる友達だけど、さすが人生の先輩です!

篠島:いえいえ、日々の課題や慣れないパソコンに苦労しているのよ。

—社会人学生としての苦労もありますか?

篠島:私の場合、夫が自分の身の回りのことをしてくれるので家事の負担は少ないけれど、ほぼ毎日出される課題をこなすだけでも想像以上にハードですね。学問は生半可な気持ちではできないな、と気を引き締めています。団塊の世代にとって、社会人入学は生涯学習の選択肢のひとつ。私もぜひお勧めしたいけれど、4年間やり遂げる意志と家族の協力が不可欠ですね。



卒業という人生の集大成をめざして。

デニス:アメリカではひとつの大学で幅広い世代が学ぶのは当たり前だけど、日本では社会人学生は少ないので?

篠島:増えつあるけれど、経済法学科では私ひとりかな? 最初は場違いかも、と引け腰だったけど、変な目で見るのは誰もいないし、みんな同級生として自然に受け入れてくれて、すっかり気分は18才(笑)!

鍛治:こうして世代も国籍も超えた付き合いができるのが北星のいいところだね。

デニス:キャンパスがゆったりしていてリラックスできるのもいいね。

篠島:キャンパスのあちこちで学生たちが輪になって楽しそうにおしゃべりしているのを見ると、同じ学生としてここにいられる幸せを感じますね。順調に進級できれば、卒業するとき私は60才。今までの人生の集大成として、いい区切りにしたいな。

取材を終えて

いま「林住期」という思想が脚光を浴びています。妻として、母としての人生を糧に、学生という新たな人生へ踏み出した篠島さんは、まさに林住期を謳歌しているのだな、と思いました。団塊の世代はもちろん若い世代にも、その生き方は大いに刺激になりそうです。

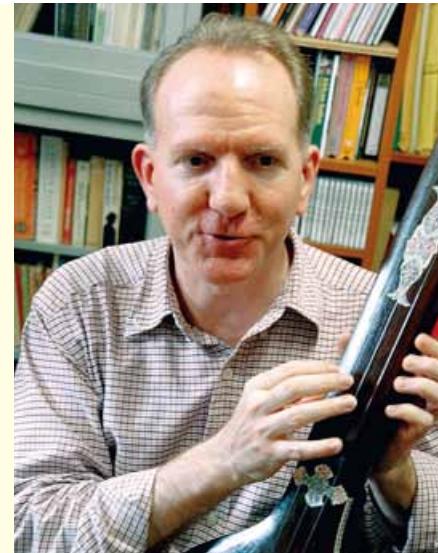
※『林住期』五木寛之／著 参照

Featured Faculty Member

先生たちのその素顔

●短期大学部 エドガー・W・ポープ先生●

音楽、それは
異文化を理解する出発点。



PROFILE

Edgar W. Pope
(エドガー・W・ポープ)

- 1983年 6月 バージニア・ポリテクニック・インスティテュート卒業
(専攻:コンピュータ・サイエンス及び英語)
1983年 9月 イエール大学大学院で
~1985年6月 コンピュータ・サイエンス、生物統計学を研究
1987年12月 ワシントン大学大学院生物統計学研究科
修士課程修了
1994年 6月 ワシントン大学大学院音楽学科
民族音楽学博士課程単位取得
1998年 3月 金沢大学大学院教育学研究科
音楽教育修士課程修了
1998年 4月 北星学園女子短期大学英文学科専任講師
2002年 4月 北星学園大学短期大学部英文学科助教授
2003年 4月 ワシントン大学大学院音楽学科
民族音楽学博士課程修了
2007年 4月 北星学園大学短期大学部英文学科教授

戦前流行歌のエキゾチズムを求めて。

私と音楽の出会いは12歳から始めたギターです。ロックやブルース、ジャズなどに熱中するうちに、他の国々の音楽にも興味が湧いてきました。大学院まで進んで生物統計学を学んでいたのですが、音楽への思いがつのるあまり民族音楽学に転向。日本の歌謡曲の歴史を研究するようになりました。とくに古賀政男や服部良一に代表される戦前の流行歌ですね。当時入ってきたジャズやタンゴ、ハワイアンなどを日本人の感性でアレンジしたエキゾチズムあふれるメロディはとても魅力的。『チャイナ・タンゴ』『広東ブルース』のように日中戦争の影響が色濃い歌も多く、音楽と文化、政治の深い関係を考えさせられます。日本の音楽は、歌謡曲のように西洋音楽を上手に取り入れる一方で、雅楽や能楽などのようにそれぞれのジャンルが息長く受け継がれているのも特徴的です。私は民謡も好きで、三味線を習っていたこともあります。今後は「声明」や「神楽」などの宗教音楽の研究にも取り組んでみたい。日本の音楽への興味は尽きません。

音楽の楽しみを、国際理解のきっかけに。

音楽は聴くだけでなく、演奏することによってその国の文化や個性を異なる角度から見ることができるものです。この研究室にもいろいろな国の楽器があります。たとえばこの「バラフォン」は西アフリカ・ギニアの打楽器。鍵盤の下に配置されたヒヨウタンによって音が広がります。ヒヨウタンには小さな穴をあけて薄い紙が張ってあり、これが振動して独特的の音を響かせます。アフリカの楽器にはこのような音色の楽器が多く見られます。これはアイリッシュハープ。この音色と形はアイルランド人の愛国心のシンボルであり、アイデンティティを象徴するものです。言語と同じく音楽も人間性の一部であり多様なものです。他国の音楽を理解することは、広く異文化を理解する出発点となることもあるでしょう。最近は中国の「二胡」や沖縄の「三線」など、西洋音楽以外の音楽に親しむ人も増えています。音楽を楽しむことをきっかけに、他の国や民族への理解を深めることができますね。



これがバラフォン。素朴な形から生まれる複雑な音色に驚かされます。



上から時計回りにタブラ(インド)、アイリッシュハープ(アイルランド)、タンブーラ(インド)。研究室のあちこちに楽器が置かれ、ポープ先生が手に取ると楽しそうに音を奏でるのであります。



短期大学部の授業「World Music」では、ジャワ島のガムラン音楽が一つのテーマ。

SEMINAR

労働、福祉、教育…
格差社会の現在と未来を考える。

第40回 北星学園大学社会福祉夏季セミナー

北海道における 格差社会と社会福祉

自治体の財政難や中小企業の営業不振、生活保護世帯の増加など、いまだ景気回復が見られない北海道。その「格差社会」の実態と道民の未来について考えるセミナーです。

- 日 程／8月28日(火)～29日(水)
- 会 場／北星学園大学内教室
- 定 員／140名(定員に達し次第締め切ります)
- 参加対象者／社会福祉に関心を持ち、期間中受講できる方。
- 受 講 料／3,000円(2日間分)
※レセプションに参加される方は会費1,000円が別途必要となります。
- 申 込 締 切／8月17日(金)必着(申込書および受講料入金)

本学のホームページでご案内中です。



※写真は昨年行われたセミナーの様子です。

OPEN CLASSES

市民の、市民による、市民のための裁判を目指して。

第33回 北星学園大学公開講座

市民が創る明日の司法 —裁判員制度と市民の裁判—

2009年にスタートする裁判員制度。その特徴と課題をさまざまな角度から検証するとともに、消費者や医療、人権など身近な紛争における裁判所の役割と市民の関わりを考えます。

- 講 師／西本 仁久氏(札幌地方検察庁 検察官)
作間 豪昭氏(札幌弁護士会 弁護士)
白取 祐司氏(北海道大学法科大学院 院長) ほか
- 日 程／10月12日(金)～11月16日(金)18:20～(全6回・毎週金曜日)
- 会 場／北星学園大学内教室
- 定 員／200名
- 受 講 料／一般 2,000円(本学学生500円)
- 申込締切／9月21日(金)必着(申込書および受講料入金)

本学のホームページでご案内中です。



※写真は昨年行われた公開講座の様子です。

各セミナー、講座、オープンユニバーシティ
お申込み・お問合せ先

北星学園大学 エクステンション課(C館1階) Tel.011-891-2731(代表) Fax.011-896-8311(直通)

OPEN UNIVERSITY

新たな世界が広がる、
社会に開かれたオープン講座。

北星オープンユニバーシティ

語学や資格取得の生涯学習を通じ、 人材育成、交流の場を提供。

社会人、卒業生に在学生も交えた生涯学習の機会として多彩な講座を開講しています。後期は10月12日(金)より、新規5講座を含め57講座の開講を予定していますので、ぜひ受講してください。

- 申込期間／9月1日(土)～9月20日(木)
- 募集講座／「語学」「資格取得対策」「文化・教養」「ビジネス・社会連携」「キリスト教神学」など
- 申込方法／募集講座の詳細は8月下旬にホームページでご案内します。
※ホームページアドレス
本学のホームページ(<http://www.hokusei.ac.jp>)から「オープンユニバーシティ」をクリックするか、<http://www.open.hokusei.ac.jp>へ直接アクセスしてください。
ホームページをご覧いただけない場合は、お電話で案内書(無料送付)をご請求ください。



※写真はドイツ語講座の様子です。

高齢化時代をすこやかに生きるために。

北星オープンユニバーシティ シニア対象講座

運動不足病にならないための 健康運動

前期開講でもご好評をいただいた、健康維持を目的としたシニア向けスポーツ講座。体力測定に基づき、一人ひとりに適した運動強度のプログラムを実践します。ふるってご参加ください。

- 講 師／三宅章介(本学教授)
- 参加対象／60歳以上の方



※写真は前期の同講座の様子です。



Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

発行／広報委員会
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL 011-891-2731(代表)
URL <http://www.hokusei.ac.jp>
E-mail kikaku@hokusei.ac.jp

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。